

海外安全対策情報（平成26年10月～12月）

1 社会情勢及び一般犯罪の傾向

(1) 11月16日の報道によると、チュニス市バブ・スイカ地区でドイツ人女性観光客がATMで現金を引き下ろしたところを男に襲われ、財布をひたたくられた他、倒されて怪我をする事件が発生しました。被害者はすぐに警察に届け出て、犯人は3時間後に逮捕されました。

(2) 12月22日、大統領選挙決戦投票（21日投開票）におけるカイド・エセブシ候補の勝利が発表されたことを受け、一部地域でこれを不服とする講義でもが発生、ガベス県エル・ハンマではデモ参加者が暴徒化し、警察官16名が負傷、複数の警察署や国家警察隊詰所が放火されました。

2 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

12月上旬、午後10時頃、邦人2名が乗った車がチュニスから約100km付近の高速道路をチュニス方向に向かって走行中、道路脇から何者かが現れ、煉瓦ほどの大きさの石を正面から投げつけ、同車両に乗車していた邦人1名が負傷し、車両フロントガラスが破損するという事件が発生しました。

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 10月23日早朝、マヌーバ県ウエド・エリルで、民家に潜伏するテログループを治安特殊部隊が包囲したところ、双方の間で銃撃戦が発生しました。同テログループは、同民家で籠城を続けましたが、翌日午前10時ころ、特殊部隊の突入によりテロリスト6名（女性5名を含む）が射殺され、他2名（男性と女性1名ずつ）が逮捕されました。この女性らは人質ではなく、積極的に銃撃戦に参加しており、そのうち一人は、女兒を腕に抱いて発砲してきた模様です。

(2) 11月5日朝、ル・ケフ県ネブールのル・ケフとジャンドゥーバを結ぶ道路で軍関係者用の送迎バスがテログループに襲撃され、軍関係者5名が死亡、10名が負傷しました。同バスには、士官学校生徒と教員が乗車しており、カーブした道路で待ち伏せした集団に襲われた模様です。

(3) テロリストの摘発、テロ計画の阻止が相次いでいます。10月6日、様々な密輸に関与していた人物宅の家宅捜索が行われ、6人が逮捕されました。これらの密輸人は、密輸に加え、若者をリビアに送り込み、リビアやシリアで戦うための軍事訓練を受けさせる活動も行っていました。また、10月28日の発表によれば、シリアナ県エリ・クリブ地区において、5人のテログループが摘発され、遠隔装置付き手製爆弾やテロに使用する予定であった電子機器、警察装備品等が押収されています。

(4) 12月1日早朝、国家警察隊員1名が首を切られ死亡した状態で発見されました。同隊員は、前日夜、兄弟と共に私服でル・ケフの町からトゥイレフへ車で帰宅していた際、10人位のテロリスト集団による偽検問に遭遇し、そこで警察隊員

と知られたため同集団に誘拐されていました。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

当該事件の発生は認知していません。

5 対日感情

基本的に良好であり、特段の変化は見られません。

6 日本企業の安全に関する諸問題

日本企業を標的とした事例はありませんが、2013年1月に隣国アルジェリアで日本人が犠牲になったイナメナス事件が発生したこともあり、当国においても日本人・日本企業を標的とするテロ・誘拐事件が発生する可能性を完全に否定することはできませんので、常に警戒を怠ることなく、自らの安全確保に十分注意することが必要となります。

また、外務省ホームページ等で「スポット情報」、「危険情報」等を掲載しておりますので、渡航前にはこれらの情報を参照されるとともに、テロ事件等の不測の事態に遭遇した際には、大使館に速やかに連絡されるようお願いいたします。